

ベニバナイチゴとサーモンベリー

著者	鳴橋 直弘
著者別表示	Naruhashi Naohiro
雑誌名	植物地理・分類研究(北陸の植物)
巻	28
号	1
ページ	13-13
発行年	1980-06-15
URL	http://doi.org/10.24517/00056381



inction between subsp. *pachyglossa* and subsp. *formosana* is clear in the points of habitats and shapes of dorsal sepal and leaf.

Acknowledgments

The author wishes to express his sincere thanks to Prof. Takasi YAMAZAKI, Botanical Gardens, University of Tokyo for his encouragement and valuable advices throughout this study, and to Dr. Mitsuko SUGIYAMA for her critical reading of this manuscript.

References

- AMES, O. 1908. *Orcidaceae Fasc. 2*. Boston, 288p.
- CORRELL, D. S. 1950. *The Native Orchids of North America*, Chronica Botanica Co. Mass.
- GARAY, L. & H. SWEET, 1974. *Orchids of Southern Ryukyu Islands*. Cambridge, Mass., 180p.
- HITCHCOCK, C. L. et al. 1969. *Vascular Plants of the Pacific Northwest Part 1*. Univ. Washigton Press.
- HOLTUM, R. E. 1957. *Orchids of Malaya*. Flora of Malaya. Singapore, 759p.
- HU, S. Y. 1975. *The Orchidaceae of China* 9. Quart. J. Taiwan Mus. 28 (1-2): 125-182.
- INOUE, K. 1979. The peculiar structure of column in *Platanthera brevicealcarata*. Journ. Jap. Bot. 54 (9): 285-288.
- KUMAZAWA, M. 1958. The sinker of *Platanthera* and *Perularia*. Phytomorphology 8: 137-145.
- LIU, T. S. & H. J. SU, 1978. Flora of Taiwan 5: 1090-1096, 1124, 1126.
- MASAMUNE, G. 1964. On some species of *Platanthera* from the island of Yakushima. Journ. Geobot., Hokuriku 12: 98.
- OGURA, Y. 1953. Anatomy and morphology of the subterranean organs in some Orchidaceae. Journ. Fac. Sci. Tokyo Univ. III. 6: 135-157.
- PFITZER, E. 1889. Orchidaceae in ENGLER & PRANTL, *Natürliche Pflanzenfamilien II*, 6: 92-93.
- SEIDENFADEN, G. 1977. Orchid Genera in Thailand V: Orchidoideae. Dansk Bot. Arkiv 31 (3): 16-17.
- SMITH, J. J. 1905. *Die Orchideen von Java*.
 ———— 1908. *Die Orchideen von Java*, Figuren-Atlas, 1: f. 12.

鳴橋直弘：ベニバナイチゴとサーモンベリー

N. NARUHASHI: *Rubus vernus* FOCKE and *R. spectabilis* PURSH

北海道西南部から本州中部にかけて分布し、主に日本海側の積雪地帯の亜高山帯から高山帯に見られるベニバナイチゴは、最初北米産のサーモンベリーと同じと考えられ、学名として *Rubus spectabilis* が使用されていた。ところが、1877年に FOCKE はこの植物は北米のものとは別種であると考え、*R. vernus* と名づけた。その後、1911年に彼はそれら 2 種は亜種関係にあるとし、*R. spectabilis* subsp. *vernus* と組変えをおこなった。日本のバラ科のモノグラフの中で、小泉源一博士はこの結果を支持した。

これら 2 分類群の形態的差については、FOCKE のキイチゴ属のモノグラフと原寛博士の北米植物の比較に述べられている。

筆者は、上記のことやアメリカのフローラ関係の文献や日本の標本庫にある標本から、類似するベニバナイチゴとサーモンベリーが別種か同一種かという問題には少なからず関心をいただいていた。

本年 7 月チャンスがあって、カナダのバンクーバーやバンクーバー島、アメリカ合衆国のアヤラック、およびレーニア山でサーモンベリーの花や果実を観察することができた。

茎が 2 年以上生きていることをはじめ、多くの形態的類似性があり、従来いわれているようにこれら 2 分類群は系統的に最も近い関係にあると筆者も推測したが、同時に次の点に差違をみた。ベニバナイチゴに比べ、サーモンベリーは分布域が広く、また、生育環境も海岸近くから高山中腹までの多湿な樹林下から斜面向陽地と多様で、形態的変異に富んでいた。果実の色も生育地の多くで、黄、オレンジ、赤と混在していた。低地では 2 m 以上にもなり、長く伸長した枝はやや開出し、植物体は大型となっていた。果実の大きさはやや小さいと思われたが、筆者にはよく目についた。なんといっても、枝にとげのある点は、大きな区別点である。

以上の形態的形質の差もさることながら、生育地の差、つまり、日本のベニバナイチゴよりはるかに低地に分布し、共存する植物が違っていることから、多くの日本の学者同様、筆者も別種関係であるという考えを支持するものである。